

地域と教育研究部会

- I **研究テーマ** 甲府市の地域素材の教材化
～子どもたちとともに地域の魅力を再発見するとりくみ～ 6年次

II 研究テーマ設定の理由

地域と教育部会では、テーマを「甲府市の地域素材の教材化 ～子どもたちとともに地域の魅力を再発見するとりくみ」としている。「地域と教育」の原点に立ち返り、市内各地域の教育素材を発掘、教材化し、新たな授業実践につなげるとりくみを展開していきたいと考え、研究初年度より、各部員の所属学校区の教育素材の洗い出しを始めた。研究を進める中で、魅力的な教育素材が存在することを改めて認識するとともに、それらが過去様々なとりくみの中で教材化され各校に残されていることもわかった。ただしそれらは必ずしも教育課程の中で使いやすい形に整理され活用されているとはいえず、それらを元に、私たちが改編や資料追加をしていくことが必要な部分もあった。また、史跡を訪ねるフィールドワークなども取り入れ、新たな資料収集にも努めてきた。研究2年度目からは、授業実践につなげるとりくみも進めてきている。

これらの経過を踏まえ、今年度も地域素材を求めるとともに、教材化していく上で必要となる関連資料を収集・整理し、地域教材を現行の教育課程の中で生かしていく方法を考える。その際、地域の歴史を伝承する方々の声を残していくことも併せて考えていく。また、部会員のための研究で終わらせず、参考資料、情報の所在等を伝え広める方法についても考える。

III 研究の経過と内容

1 研究の経過

第1回	4/10	・部会員の確認、役員決定、研究テーマ決定
第2回	5/15	・テーマ設定の理由・研究の方針・研究計画
第3回	6/17	・東小での実践について ・中道南小「中道ふるさとハイク」のとりくみについて 他
第4回	8/7	・相川小学校「地域資料室」整備のとりくみについて
第5回	8/20	・フィールドワーク 武田氏館跡整備について
第6回	9/4	・東小での実践について リポート検討
第7回	10/2	・東小での実践について リポート完成
第8回	11/4	・東小での実践について 県教研報告
第9回	1/27	・研究のまとめ

2 研究の内容

(1) 東小学校の実践

- 1 地域素材名 朝気遺跡
- 2 学年・教科等 第6学年 総合的な学習の時間 ふるさとの歴史について知ろう
- 3 東小学校区及び児童の実態 (略)
- 4 指導内容と地域素材との関係

「甲府市の地域素材の教材化」「子どもたちとともに地域の魅力を再発見するとりくみ」の研究テーマをうけ、今回の授業では自分たちの学校の敷地内や校区から発掘された遺跡の内容について視点をおき、自分たちの住んでいる地域を知り、地域の魅力を再発見できるような指導を心がけたい。

これらの地域素材を教材化するにあたって、甲府市教育委員会文化財主事、伊藤正幸様を講師に招き、まずは朝気遺跡の発掘の様子などの説明をしていただくこととした。また、学習した事や調べまとめた結果を下級生に知らせ、後輩に地域の魅力を伝える学習につなげたい。

5 指導の目標

- 地域の遺跡「朝気遺跡」に興味を持ち、郷土に愛着を感じることができる。
- 調べたことをまとめ、自分なりの考えを持つことができる。
- 仲間とともに積極的に調べ、その内容を下級生に伝えることができる。

6 指導計画 (全12時間)

第一次	「朝気遺跡の様子を知ろう」	(2時間)
第二次	「学習の課題を決め、学習の計画を立てよう」	(2時間)
第三次	「伝えたい朝気遺跡のみりよくを探して調べよう」	(4時間)
第四次	「伝えたい方法を考え作り、5年生に伝えよう」	(4時間)

7 学習について

- (1) 朝氣と大和武尊 (ヤマトタケル) (略)
- (2) 東小学校と道路の発掘の経過 (略)
- (3) 朝氣遺跡ってどんなところ? (略)
- (4) 学習の経過

第一次 「朝氣遺跡の様子を知ろう」

「朝氣遺跡の様子を知ろう」

朝氣遺跡の発掘の様子を知るために甲府市教育委員会文化財主事、伊藤正幸様を講師に招いて朝氣遺跡の発掘の様子などの説明をしていただいた。児童たちは、発掘の様子や遺跡の規模、出土品の修復の仕方等を知り改めて朝氣遺跡の素晴らしさや、魅力について知ることができた。また、このような素晴らしい遺跡について自分なりに調べて、下級生にも伝えていきたいという学習意欲を持つことができた。

(授業後の学習感想)

朝氣遺跡がどこから出たのか、朝氣遺跡から発見された土器などを見て土器の欠片から土器の形に戻すにはどうするのかなどということを知りました。／発掘は6回行われたこと、この遺跡からは縄文時代から平安時代までのものが出てきたことがすごいと思いました。／土器の種類や役割。なぜこの地域を「朝氣」と呼ぶようになったのかがわかった。／朝氣遺跡の全体は東小学校の学区くらいの広さがあり、発掘した土器を復元するまでには約3ヶ月もの時間がかかるということがわかりました。／朝氣遺跡にはたくさんの住居跡や水路、人骨、馬の骨が埋まっていたということや、朝氣遺跡からたくさんの土器や土偶、田げた、馬の骨、つぼ等が発見されていることから大昔の人々の暮らしの様子がわかりました。／朝氣遺跡は500年くらい前の遺跡だと思っていましたが、本当はもっともっと前の遺跡だということにおどろきました。／昔は太い木の板を使って水路を造っていたということ。土の中には人の骨に混じって馬の骨などの動物の骨も埋まっていたということ。／土器には使われ方によっていろいろな形があるということや、時代によって形や模様が変わってきたということがわかりました。／自分たちが住んでいる地域にも遺跡が残っていて大切なものであることがわかった。

など

第二次 「学習の課題を決め、学習の計画を立てよう」

朝氣遺跡の出前授業の後、遺跡の魅力についてやこれから学習していきたいこと等について話し合いを行い、学習の計画を立てた。

(朝氣遺跡のみりよくは何ですか?)

昔の人にあんなにすごい技術があるということや、間近で出土したものを見ることができることがすごい。／発掘された土器を手にとって見ることができることがみりよくです。／社会科で勉強する「田げた」や「石包丁」などを見ることができることがすごい。／社会科の教科書や資料集で見たものと同じようなものが発見されたというところ。／私たちが住んでいるこの地域は大昔から人々が生活をしてきたということや、その時代の人たちが使っていたものが発見されたということに感動した。／見つかったものから昔の人々の生活がわかるところがすごい。／自分たちが学習している学校の下で、身近な場所にあるということがみりよくです。／いろいろな時代の遺跡があるということが自慢できる。

(これからの学習で学んでいきたいことや、調べていきたいことは?)

朝氣遺跡だけではなく、他の地域で発見された土器などを調べてみたい。／土器の種類や役割を調べていきたい。／地面をどのくらいの深さまで掘ったら土器が出てくるのかを調べてみたい。／朝氣遺跡のことを調べて、下級生に伝えていきたい。／自分でも土器を見つけてみたい。 など

(下級生に伝える方法を考えよう)

学校集会で伝えたい。／学校のテレビ放送で伝えたい。／ホームページで伝えていきたい。／本物の土器を見せながら伝えていきたい。／調べたことを廊下に掲示していく。／自分たちで朝氣遺跡を紹介する文などを書いて説明する。／パンフレットやリーフレットをつくって下級生に伝えていきたい。／調べたことをまとめ、発表する。／朝の学習の時間に、各クラスを回って教えていきたい。／たてわり活動の時に伝えていきたい。 など

第三次 「伝えたい朝氣遺跡のみりよくを探して調べよう」

学習計画や疑問に思ったことをもとに、児童一人一人が学習課題をもち、朝氣遺跡についての調べ学習を行った。調べた内容は新聞にまとめ、朝氣遺跡について5年生へ伝えるための手だての一つとして、5年生教室の廊下へ掲示した。

第四次 「伝えたい方法を考え作り、5年生に伝えよう」

- ①調べた内容をもとに伝えたい内容ごとにグループを作り伝える方法を考えた。
- ②伝える方法に合った資料の作成を行った。(模型を作る、紙芝居を作る、リーフレットを作るなど)
- ③グループに分かれ5年生に伝えた。

8 おわりに

今回の実践では自分たちの学校の敷地内や校区から発掘された遺跡（朝気遺跡）について視点をおき、自分たちの住んでいる地域を知り、地域の魅力を再発見できるような指導を心がけ実践を行った。朝気遺跡については、発掘当時の調査員の方が甲府市教育委員会に在職しており、発掘の様子や出土品の様子、発掘からわかることなどについて詳しく説明をしていただいた。自分たちが学んでいる学校から遺跡が発掘された話を実際に発掘をした人から聞くことによって、児童は興味・関心をもって実践にとりくむことができた点は成果だと思う。しかし、実践を行う前の児童のアンケートから朝気遺跡のことを知らなかった児童が半数以上いたことや、学校に展示してある土器等は、朝気遺跡から発見された出土品の一部が展示してあることを知らなかった児童もいたことから、今後は遺跡について伝え、紹介していかなければこの貴重な「地域の宝」は存在を忘れ去られてしまうのではないかと思われる。また、遺跡のことを詳しく説明していただける方が、年々少なくなっていくことも考えられるので、今後も何らかの形で伝え残していくことが課題である。

今回実践を通して地域にはまだまだ魅力的な素材になりそうな「もの」「こと」「ひと」があることに気づくことができた。しかし地域のことを知らないのは児童たちだけではなく、児童たちの保護者の世代も地域のことは「わかっているようでわかっていない」ことが浮き彫りとなった。また、保護者を巻き込んで行われるこのような地域学習は、保護者が地域につながるきっかけを提供している。そのため、地域素材の望ましい保存方法や活用方法などについても、学校や地域が連携して考えていく必要がある。

（２）史跡巡りのとりくみ

1. 実施日 2014年8月20日（水）
2. 講師 甲府市教育委員会生涯学習室文化課文化財係 佐々木 満 様
3. 見学地

史跡 武田氏館跡

4. とりくみの概要

本部会では、地域の資料収集のためのインタビューやフィールドワークにも継続してとりくんでいる。昨年度は穴切地区、一昨年度は新紺屋地区を中心とした史跡の数々を訪ね、元県史編纂室の林様に案内役をお願いし、有意義なフィールドワークを重ねてきた。

今年は、相川地区の武田氏館跡を訪ね、甲府市教育委員会生涯学習室文化課文化財係の佐々木満様を講師にお招きし、武田氏館跡発掘調査の概要と今後の整備計画について、ご講義いただくとともに、現地に出向き、遺構を直接見ながら、くわしい解説をいただいた。

講義では、主に、武田氏館跡の位置や歴史現在の状況など概要に関する事、武田氏館跡の構造など最近の発掘調査の成果に関する事、平成31年度までに予定されている史跡武田氏館跡整備事業に関する事について説明いただいた。特に、今後の整備計画のうち、武田神社正面、大手3丁目地内に建設が予定されている、史跡武田氏館跡総合案内所の計画について、その展示コンセプトや現時点での施設配置計画等を説明いただくことができた。今後学校教育でも利用していくことが考えられる施設でもあり、興味深く聞かせていただいた。

普段から地域の素材に目を向け、情報収集している私たちにとって、こうして文化財調査、保護を専門とする方から地域素材に関する講義をいただくことは、大変有効なとりくみであった。今後も私たちの研究方法の一つとして続けていきたい。

IV 研究の反省と課題

本年度も部員の所属校区を中心に、広く地域素材を求めてきた。本稿に掲載した東地区を中心として、所属部員の所属校区の地域素材を求めてきた。部員数が少ないため、学校間の関連を考えた全市的な広がりのあるとりくみを作りづらい部分はあるが、今後も教材化のとりくみを進めていきたい。また、地域の歴史に精通した方々への聞き取り調査についても進めていきたい。